

## 事例9

那須塩原市東那須野公民館・那須塩原市立東那須野中学校・大原間小学校・波立小学校

# 熊川の源流を訪ねて in 東那須野 (31km強歩)



## 連携の経緯

東那須野地区では、旧黒磯市時代の平成9年から「東那須野地区学社連携・融合推進会議」を設置し、家庭、学校、地域の連携を組織的に進めてきた。会議は地区の2小学校、1中学校、各PTA、地域団体の代表、公民館職員の計21名で構成され、事業計画や地域課題を共有し、解決に向けての活動を展開している。

合併後も継続して会議が開催され地域の様々な連携事業の基礎をかたちづくっている。

## 連携事業の概要

この事業は、東那須野公民館と東那須野中学校、大原間小学校、波立小学校及び各PTAの連携事業として平成13年度にスタートしている。地元を流れる熊川の源流を訪ねる強歩であり、発達段階にあわせて5つのコースに分かれて行われている。事業目的は、①学校と公民館の共催事業として地域が一体となって取り組み、地域全体で子どもを育てること、②私たちをはぐくんでくれた郷土に感謝し、「豊かな心」を育てること、③完歩という同じ目標に向かって努力することで、連帯感や友情を深めること、であり学校と一緒にした事業によって地域の教育力を高めるものとなっている。平成19年度は6月16日（土）に開催し、約1,200名の参加があった。

## 連携の形態

本事業は、現在も継続している「東那須野地区学社連携・融合推進会議」で提案された事業として、学校と公民館がそれぞれ役割分担し、「共催」という連携のかたちをとっている。

この事業を推進するために、公民館と学校の担当者・PTA・行政区長会などによって構成される「運営委員会」（年4回）が組織され、事業実施の細部にわたる企画と調整が行われている。

各学校では、それが特別活動あるいは体育の授業として位置づけられ、公民館としては主催事業として位置づけられている。学校側には、連携窓口の教頭の他に「熊川源流強歩」担当の教員（運営委員を兼ねる）がそれぞれ決められ、東那須野中学校が全体の事務局を担っている。

各学校は参加者を集め、各PTAより当日の運営役員を選出する。事務局は説明会を開催し、運営役員が必要物資の運搬、各チェックポイントの会場借用及び設営、救急運搬車の手当、パトロールカーでの巡回などを担当する。

公民館は、市広報や公民館だよりを地元の全戸に配布し、事業の広報活動を行う。この他必要な消耗品などの購入予算の提供、一般参加者の受付窓口、チェックポイントとなる自治公民館の貸借、仮設トイレの手配、臨時バスの運行などを担当する。

# 那須塩原市東那須野公民館

## 【施設データ】

|        |                   |
|--------|-------------------|
| 所在地    | 那須塩原市東小屋474番地11   |
| 電話     | 0287-67-1163      |
| 設置年    | 昭和25年             |
| 対象地域人口 | 10,695人           |
| 延床面積   | 951m <sup>2</sup> |
| 設置状況   | 単独                |
| U R L  |                   |

## 【施設の管理運営等】

|       |                     |
|-------|---------------------|
| 職員の状況 | ・館長（専任1）            |
|       | ・副館長（専任1、非常勤特別職）    |
| 協議会等  | ・主事（専任1、社会教育主事有資格者） |
|       | ・社会教育指導員（専任1）       |
|       | ・用務員（専任1）           |

  

|     |                   |                 |
|-----|-------------------|-----------------|
| 予算額 | 維持管理費： 9,980,000円 | 事業費： 2,497,000円 |
|-----|-------------------|-----------------|

## 連携の留意点

- 平成8年から市教育委員会全体で学社連携・融合の施策を取り入れ、学校と地域の連携に関する推進会議などが設置されており、連携の機運ができている。
- 事業実施にあたり、各学校・公民館の運営担当者が事業を円滑に推進するための運営委員会を開催し、事業の目的の確認、コース設定、役割分担、チェックポイント、給水、交通関係などの細かい部分を検討している。



## 成 果

- この連携が地域の子どもたちの健全育成や安全安心なまちづくりにも生かされ、見守りボランティアなどの活動に発展している。
- 地区全戸に事業内容を広報・周知することが、幼児から高齢者までの参加につながり、地域全体の行事となっている。
- この事業で様々な情報が共有され、公民館は公民館主催事業として、大原間小学校のコンピュータ室を会場に、教員が講師となった地域住民対象の初心者パソコン教室を開催した。



## 課 題

- 公民館が、今後も地域の様々な団体と連携することで、地域の一体感が強まり、子どもから大人までの交流がさらに深まることが期待される。
- 本事業が地域の教育力を高め、教育を核としたまちづくりが展開できる素地となるよう、運営上の工夫が必要である。
- 本事業は今まで無事故で実施してきたが、交通事故や落雷への対策などの危機管理がこれまで以上に必要になる。

